

とうじしゃ まじ  
当事者を交えたワークショップ

など み かだい  
等で見えてきた課題

しょうがいしゃ ようはいりよしゃ ぼううさいたいさく  
(障害者・要配慮者の防災対策)



しょうがい どうじしゃ まじ かいさい

4/25(月)に、障害当事者を交えたワークショップを開催。

• 4/25(月)16～18時

さんかしゃ  
• 参加者 計32名

しょうがいどうじしゃ したい ちようかく しかく せいしん ちてき しえんいん  
障害当事者(肢体、聴覚、視覚、精神、知的)10名及びその支援員

ちいきかんけいしゃ みるせいいいん など  
地域関係者(民生委員等)

がくせい こうべがくいんだいがく あかしこうせん  
学生(神戸学院大学、明石高専)

じようき ほか じむきよく しゃくしょしょくいん しゅわつうやくしゃ など かく さんか  
※上記の他、事務局(市役所職員)、手話通訳者等が各グループに参加

ぎろん  
• 議論したテーマ

さいがい お  
災害が起きた！  
どこにどうやって  
に  
逃げる？

ひなんじよせいかつ なに  
避難所生活、何が  
こまる？

じたく ひなん とき  
自宅で避難する時、  
どんなことにこま  
る？

しやくしよ とりく せつめい  
市役所からの取組み説明



こま たい  
困ることに対して、  
ちいき じぶん なに  
地域や自分で何がサ  
ポートできるかも、  
はな あ  
話し合いました

かく  
各グループごとにディスカッション



かく  
各グループごとに最後にひとこと  
さいご



こうべがくいんだい      あかしこうせん  
神戸学院大、明石高専の  
がくせい      みな      げんき  
学生の皆さん、元気です

とうじつ  
当日のヒトコマ



とうじつ  
当日は、  
もとづかざちよう      がくせい      いんそつ  
本塚座長(学生の引率)、  
おおのいいん      ちいきかんけいしゃ  
大野委員(地域関係者)  
にもご参加いただきました  
さんか

しょうがい 障害がある方は、  
かた 一方で、  
かた くら 一方で、  
じたく じたく 自宅での避難を  
ひなん 選ぶ傾向が  
えら 強い。  
けいこう

じたく  
自宅  
16名[5名]

ひなんじょ 避難所・学校  
がっこう  
20名[3名]

たかだい  
高台  
6名[1名]

た  
その他  
7名[0名]

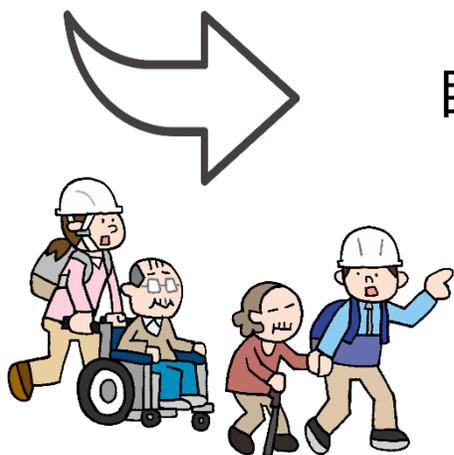
いちぶ 一部複数回答有り  
ふくすう かいとう あ

※[ ]内は障害がある方の人数  
ない しょうがい かにんずう

ひなんじょ ひなん  
避難所への避難

## 避難所に行くまでにも困難が・・・

- いつも通っている道路が通れば避難できるが、とおひなんじょ・い・こんなん 陥没・瓦の落下や電柱倒壊等がある場合、迂回路を使う必要があり、一人で避難は困難(視覚)
- 道路が陥没していたら車いすでの避難は困難(肢体)
- 市内アナウンスや掛け声が聞こえない。深夜の豪雨などは音に気付かないため、災害が起きていること自体を認識できない不安(聴覚)
- 移動手段が困る。車を利用したいが渋滞することを心配(精神)



自分たち、じぶん、ちいき、ぎょうせい 地域、行政でこんなことができるのではないか？

- 近所同士が車に乗りあって避難する
- 学生・体力のある人は、住民の荷物や人を運ぶサポートができる
- 地域での情報の共有・伝達
- 懐中電灯や防災バッグを準備しておく

## 避難所でも困難が...

- トイレや更衣室にたどり着きやすいよう、体育館に避難するなら入口付近の場所だとたすかる(視覚)
- 福祉避難室があれば利用したいが、具体の想像がつかない(視覚)
- 盗難被害が心配、困りごとの相談を誰にしてよいのか不安、普段と違う環境でパニックになってしまう(知的)
- トイレに時間がかかるため、周りに迷惑をかけないか不安(肢体)
- 同居家族が足が悪いため、トイレのバリアフリー対応(ポールがついている、介助人も入れる大きさなど)を希望する(精神)

## 障害者以外からも心配の声が...

- 高齢者はトイレが昼夜問わず近い方が多いので、十分なトイレの数があるか、また夜でもトイレに行きやすい環境かが不安。
- 更衣室は、できれば簡易なものではなく個室が良い。
- 介護食や処方薬が必要なため、避難時の対応が心配。
- 子どもやペットを連れていると騒がしくしてしまうため心苦しい。

ひなんじよ  
**避難所でのおこまりごと、**  
 じぶんたち ちいき ぎょうせい なに  
**自分達、地域、行政で何ができる？**



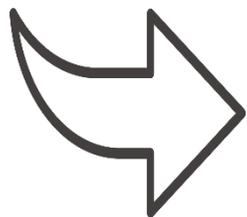
- ちてき せいしん しょうがい いっけん まわり み ほんにん せつめいしょ  
 知的や精神障害は一見すると周りに見えづらい。本人の「説明書」のようなものを  
 ようい おおごえ たどう たい しゅうい りかい あんしん  
 用意しておいたり、大声や多動に対する周囲からの理解があると安心できる。また  
 しじ たんじゆん つた かた くふう ひつよう  
 指示は単純にするなど、伝え方の工夫も必要。
- みまわ ひなんしゃどうし やくわり ばんたん ぎょうせい ふたん へ がくせい ちいき  
 見回りなど、避難者同士で役割分担をすれば行政の負担が減る。学生も地域に  
 こうけん やくわり わ ふ  
 貢献できるので役割を割り振ってほしい。
- じょうほうでんたつ ひと ほうほう おんせい もじ え たよう ほうほう おこな  
 情報伝達を一つの方法だけでなく、音声・文字・絵など多様な方法で行う。
- けいたい じゅうでん ぎ ちめいてき かんでんち よび でんちしき じゅうでんき あんしん  
 携帯の充電切れは致命的なので、乾電池の予備や電池式充電器があると安心。

じたく ひなん  
自宅での避難

ざいたく ひなん  
(在宅避難)

## 在宅避難を選ぶ当事者の声

- 阪神大震災の時にも自宅<sup>じたく</sup>で避難<sup>ひなん</sup>した(視覚<sup>しかく</sup>)
- 盲導犬<sup>もうどうけん</sup>がいるので避難所<sup>ひなんじょ</sup>に行けない(視覚<sup>しかく</sup>)
- マンション高層階<sup>こうそうかい</sup>に住んでいるため、EV<sup>えれべーたー</sup>が止まらないか不安<sup>ふあん</sup>(視覚<sup>しかく</sup>)
- 火事<sup>かじ</sup>以外の<sup>いがい</sup>場合は<sup>ばあい</sup>自宅<sup>じたく</sup>に避難<sup>ひなん</sup>する(肢体<sup>したい</sup>)
- 阪神大震災時<sup>はんしん だいしんさいじ</sup>、親<sup>おや</sup>が避難所<sup>ひなんじょ</sup>をいやがった(知的<sup>ちてき</sup>)



自分たち、地域<sup>ぢがん</sup>、行政<sup>ちいき</sup>でこんなことができるのではないか？

- マンション住民<sup>じゅうみん</sup>同士<sup>どうし</sup>、声掛け<sup>こえが</sup>をする
- 聴覚障害者<sup>ちやうかく しょうがいしゃ</sup>のことを考慮<sup>こうりょ</sup>して、フェイスシールド(マスクだと読唇<sup>どくしん</sup>ができないため)や筆談<sup>ひつだん</sup>ボード<sup>じゆんび</sup>を準備<sup>じゆんび</sup>しておく
- 障害者<sup>しょうがいしゃ</sup>が住んでいることを伝えるマーク<sup>まーく</sup>を家の外<sup>け</sup>につける。
- ブロック塀<sup>べい</sup>をフェンス<sup>お</sup>に置き換<sup>か</sup>える



## 在宅避難で困ること…

- 正しい情報がタイムリーに入手できないと困る(複数者より)
- 処方薬が入手できないことが不安(視覚)
- 断水によるトイレ・洗濯・食事が自分一人でできるか不安。知り合いがいないと心細い(肢体)
- 体調不良時にどこに相談したらよいか不安(肢体)
- 外部や知り合いへの連絡をどのようにとってよいか(聴覚)

## 障害者以外からも心配の声…

- トイレが使えなくなったらどうしたらよいか。
- 携帯の充電やシルバーカーの充電ができないと困る。
- 処方薬が切れた後に入手できるのか不安。
- ストックしていた飲み水や食料が無くなったらどうすればよいか。
- 病院や物資に関する情報が必要

## 在宅避難時のおこまりごと、

## 自分達、地域、行政で何ができる？



### ■近所同士の「共助」■

- 地域での情報共有をシェアすれば、お互い安心できるのでは。
- 各家庭ごとに足りないものがあれば、近所同士でシェアしたり貸したりすれば良いのでは(食料やポケット充電器)
- 子どもの預かり合いやマンション内での声掛けなどをしたら安心できる。
- 物資を取りに行けない人の分は近所同士で取りに行ってもらってはどうか。

### ■自分で備える「自助」■

- 備蓄物資を常に家に置いておくように工夫する(水・食料・カセットコンロ・非常用バッテリーなど)
- お風呂の残り湯を流さずとっておく。

### ■行政の取組み「公助」■

- 災害発生時の情報提供について、多様な市民に配慮した方法へ変更してはどうか。

なに  
何ができる？

## お互いを知る関係づくり(個別避難計画の作成促進)

- ✓ 災害リスクの高い明石川流域をはじめ、沿岸部等の地域で順次、個別避難計画の作成に取り組む、成果や作成上の課題等について意見交換する場を設ける。

## 各地域でのモデル的取り組みの実施

- ✓ 各地域で実施している避難訓練はイベント型(炊き出し、消火訓練等)が多数を占める(18校区中15校区がイベント型)。イベント型の場合、まち協のコアなメンバーが中心となった訓練となり、普段地域に関りが薄い層が参加しづらいケースもある。障害の有無や年齢・性別に関わらず、多様な住民が参加し、地域内の交流を深め防災意識を高めるような防災訓練をモデル的に実施する。

(例)

避難所開設ワークショップやシュミレーションゲームを実施、子連れでも参加しやすいよう一時預かりを実施、小学校の生徒と共同で防災訓練を実施、等

## 避難所運営の工夫

- ✓ 第1回専門委員会議の議論も踏まえつつ、障害者でも安心して避難所で過ごせるためのポイントを、避難所マニュアルに盛り込む。
- ✓ 避難者も協力して役割分担できるような工夫をする(例:行政側で役割分担カードを作り、それをみて各避難者が自身が請負う役割に立候補する)
- ✓ 避難者名簿を、避難所に避難している人のみを対象にするのではなく、在宅や車中避難者も含めて避難者名簿を作成する運用に変更する。
- ✓ 避難者名簿の様式を見直す(例:避難場所、障害がある場合はその種別、授乳アセスメント状況等必要な項目を追記)。

## 情報提供の工夫

- ✓ 情報提供内容の拡充(例:二次災害、警報、避難指示に留まらず、給水や物の配給状況なども情報提供する)
- ✓ 情報提供方法の工夫(例:誰でも情報が把握・検索しやすいWEBシステムの構築)